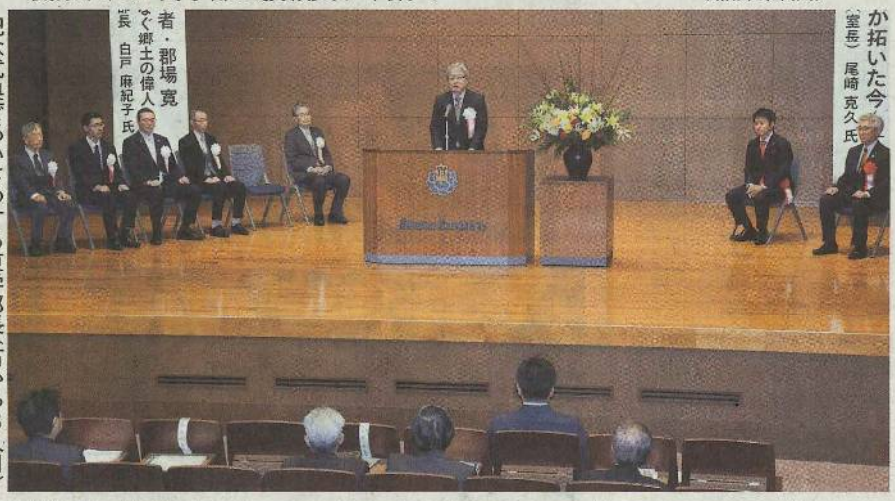
弘大農学生命科学部が70周年

歩みを止めず100年へ

弘前大学農学生命科学部の創立70周年を記念する式典と講演会が６日、同大創立50周年記念会館で開かれた。同学部の教職員や卒業生ら約150人が出席し、創立以来地域と共に歩んできた歴史を振り返り、未来への思いを新たにした。（稲葉智絵）



記念式典であいさつする東学部長（右から3人目）

記念式典と講演会　歴史振り返り決意

植物学者である郡場寛第2代学長が、就任翌年の1955年7月に文理学部農学科を分離独立して「農学部」を創立。97年10月に理学部、農学部改組により、理学部生物学科を農学部へ移設して「農学生命科学部」に改称した。

式典で東信行学部長が「70年の節目を迎えることができたのは、先人の努力はもとより、卒業生、地域の方々をはじめとする関係各位の応援と尽力によるもので、改めて感謝の意を表する。直面する問題の解決や科学の発展、教育、社会貢献などと真摯に向き合い、次の10年、30年、100年と歩みを止めずに前に進んでいく」とあいさつ。福田眞作学長が「『世界に発信し、地域と共に創造する大学』として、また『地域中核・特色ある研究大学』としての使命をさらに深化させ、農学生命科学部を含む全学部の連携と総合力をもって、地域および地球規模の課題解決にまい進していく」と述べた。

在学生を代表して大学院農学生命科学研究科生物学コースの横川寛太さんが「70年の歴史の延長線上に私たちはいる。次の世代につないでいくため、ここで得た学びを胸に社会貢献を果たしていきたい」と誓った。

卒業生でJT生命誌研究館の尾崎克久研究員（室長）、弘前市の白戸麻紀子観光部長（同大理学部生物学科卒）らが講演し、農学生命科学部の歩みを振り返るとともに、近年の研究成果などについて述べた。

者・郡場寛
ぐ郷土の偉人
長　白戸麻紀子氏

か拓いた今
室長）尾崎克久氏

この画像は，当該ページに限って”陸奥新報”の記事利用を許諾したものです。無断転載はできません。